

# VERA

Tokyo Woman's Christian University



CHRISTMAS MESSAGE

## 闇に勝る光がある

人文学科 哲学専攻 准教授 五十嵐 成見

# C H R I S T M A S

## 闇に勝る光がある

人文学科 哲学専攻 准教授

五十嵐 成見 IKARASHI Narumi

ユダヤ系ドイツ人の哲学者にH・アーレントがいます。1961年、ナチス政権によるホロコーストの責任者だったA・アイヒマンの裁判がエルサレムで行われた際、『ザ・ニューヨーカー』誌から取材を依頼されました。著作『エルサレムのアイヒマン』はその傍聴を通じた彼女自身の思想の軌跡を表したものです。

アーレントがその裁判で目にしたアイヒマンの姿は驚くべきものでした。非道な大虐殺を計画した人物に見合いそうな悪意に満ち満ちたような風貌でも態度でも何でもなかったのです。どこにでもいる、神経質そうな普通の男でした。

アイヒマンは、自分は組織の歯車でしかなかったとの自己弁護に終始しました。自分が判断したのではなく、ただ上部からの命令に従って行っただけなのだ、と。

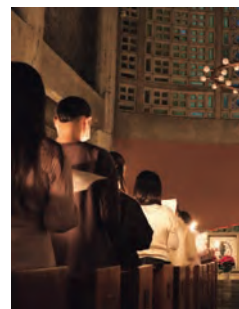
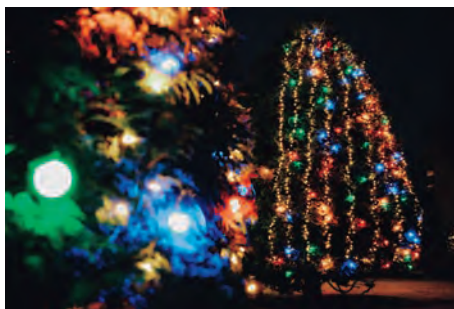
彼の姿と言動を見てアーレントは深慮します。やがて、ユダヤ人大虐殺計画を引き起こした悪は、実は非情かつ非凡な悪なのではなくて、むしろ一般の人間に宿っている平凡な悪によって起こされたのではないかと考え、有名な「悪の凡庸さ」のテーマが提示されることとなりました。ホロコーストは、ユダヤ人に

対する激しい憎悪や殺意から生まれたものだけではなく、官僚主義的なプロセスの中で作られた決まりを、思考することもなく無批判に受け入れる市井の人々の「悪の凡庸さ」によって生まれたのだと捉えたのです。

新約聖書『ルカによる福音書』が伝えるイエス・キリストの降誕の記事は、初代ローマ皇帝アウグストゥスが、帝国内の全ての属州に対する住民に対して、自分の戸籍地に戻って住民登録をせよ、という命令を出したことにより、イエスの父となるヨセフと身重の母マリアがベツレヘムへの旅を強いられたことを伝えています。たとえ子を宿し、臨月を迎えようとしている女性であっても皇帝の命令は絶対であり、あらがうことなどできませんでした。

しかもベツレヘムに着いた彼らを待ち受けていたのは、同じように住民登録のために帰郷してきた多くの人々でした。そのために、ベツレヘム中の宿泊施設は満室だったと考えることは不自然なことではありません。そのためにマリアとヨセフは、どこにも泊まることができずに家畜小屋で過ごさざるを得なかったと、教会やキリスト教学校等で児童や学生が演じる降誕劇（ページェント）では語られます。

しかし実際はそう単純なことではありません。ユダヤ教の人々が重んじていた律法に次のような言葉があります。「妊娠して男児を出産したとき、産婦は月経による汚れの日数と同じ7日間



# M E S S A G E

汚れている。……産婦は出血の汚れが清まるのに必要な33日の間、家にとどまる」(レビ記12:2-4)もし女性が男の子を生んだなら、出血の汚れが清まるのに必要な33日間、子を生んだ家にとどまる必要があります。宿屋の主人の側からしたら、自分の管理する宿屋で女性が子どもを生んだら宗教上の汚れが付いた女性をとどめ続けなければなりません。しかし今は、帰郷してきた旅人たちでいっぱいのベツレヘムです。宿屋の主人にしてみれば降ってわいたような稼ぎ時です。それにもかかわらず、自分の宿屋で女性が子どもを生んだことになれば、宗教上の汚れを嫌う人々から忌避され、うわさがたてられて客足が途絶えてしまい、絶好の書き入れ時を不意にしてしまうことは明らかです。

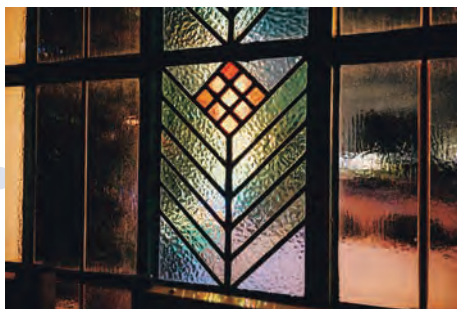
だから宿屋の主人たちは、マリアとヨセフを仕方なく、ではなく「あえて」泊めませんでした。そして、どうせ他の人が世話してくれるだろう、とも思ったでしょう。しかし結果として誰も世話をする人はいませんでした。困窮する他者を労わる愛よりも、自己利益を優先させた人々の行為の結果として、マリアとヨセフは宿屋に泊めてもらうことができず、そこで家畜小屋を選ばざるを得ませんでした。人間の愛の冷え切った中で、いのちの誕生さえも脅かされる中、汚い、暗い、臭い所でイエスはお生まれになったことを『ルカによる福音書』は描いています。

ただし見方を変えれば、宿屋の主人たちが明確な悪意を持ってマリアたちを宿泊させなかった、というよりも、彼らが生き

ていた宗教の命令に従っただけだという主張もできます。ここにこそ、組織の文化的システムの中で、無批判に思考することなく、自己利益を優先して、他者のいのちの危機を全く顧みないような行動にひた走ってしまう人間の罪の姿があります。宿屋の主人における悪の凡庸さが、マリアとヨセフを家畜小屋へと追いやり、神の御子イエス・キリストのいのちの誕生さえも阻むことになりかねなかったのです。そんな闇の世界の現実の中、人間の悪を受け入れられて、イエスはこの世にお生まれになりました。

翻って私たちはどうでしょうか。悪の凡庸さに、無意識のままに絡め取られて日々を過ごしてきたのではないのでしょうか。クリスマスは年末に訪れますが、このときこそ、一年の自らの歩みを振り返るときでもありましよう。

このクリスマスのとき、煌々と照らされるネオンの中でも現実を見据える人は、きっと世界の闇や悪の影を感じざるを得ないでしょう。しかし私たちはクリスマスとき、人間の闇の中でこそ神の光をもたらすイエス・キリストを見つめます。そのとき私たちは、闇の子ではなくて、神から創られた光の子として生きます。悪の影に諦念を抱き、自分も同じようにして悪に加担するのではなくて、「闇の中に輝く光」(ヨハネ1:5)として生きるのです。それが東京女子大学を貫く建学の精神に生きる私たちの歩みではないのでしょうか。❀



NEW FACE  
インタビュー

リベラルアーツ教育のさらなる進化を目指し、段階的に進められている教学改革。2024年度からの本格始動に先駆け、いくつかの新しい取り組みがすでに始められています。今回は、2023年度に着任されたお二人の先生にお話をうかがいました。

## 深い思考をもたらず「実践的な学び」とは？

## 内田 和成

特別客員教授（経営学）

豊富な企業実例を活用し、  
実践的に「経営戦略論」を学ぶ



UCHIDA Kazunari

東京大学工学部卒業。慶應義塾大学大学院経営管理研究科修了。日本航空を経て、世界を代表する経営コンサルティング会社「ポストン・コンサルティング・グループ（BCG）」入社。2000年6月～2004年12月、BCG日本代表を務めた。2006年には「世界でもっとも有力なコンサルタントのトップ25人」（米コンサルティング・マガジン）に選出。2006年～2022年3月、早稲田大学大学院経営管理研究科（ビジネススクール）教授。2023年4月より現職。2024年度は、3年次演習Ⅰ・Ⅱ、アクティブ・ラーニング実習Ⅰ・Ⅱ、「経営戦略論」を担当予定。

「ケース課題」と「グループワーク」が  
実現するリアリティのある学び

「経営戦略論」では、さまざまなワークを通じて、実践的に経営戦略を学びます。学生は単にアカデミックな知識を得るのではなく、自分が経営コンサルタントになったつもりで知識を活用し、将来の仕事に役立つ実践的スキルや深い思考力を身に付けていきます。授業は「ケース課題」と「グループワーク」の2本立てで行われます。「ケース課題」では、実際のケース（企業実例）を用いて学習テーマを学びます。例えば「マイケル・ポー

逸見  
シヤンタール

客員教授（教育学・英語）

文化理解を背景に、  
新たな英語学習で  
人間としての総合力を育む



HEMMI Chantal

東京女子大学英米文学科卒業。英国のRoyal Society of ArtsでTEFLディプロマを取得。レディング大学で英語教授法修士課程修了。エクセター大学でバイリンガルの日本女性のアイデンティティについて研究し、英語教授法博士課程修了。ロンドン大学Institute of Educationでの教材・カリキュラム研究、および日本の私立高校やブリティッシュ・カウンシルにてアカデミックディレクターを務めた他、上智大学言語教育研究センター教授などを歴任。2023年4月より現職。2024年度は新カリキュラムを含む1・2年次の必修科目を担当予定。

多面的な英語学習アプローチ「CLIL」と  
リベラルアーツの共通点

私は、語学の学びとは文化を学ぶことでもあると考えています。異文化間でコミュニケーションをとるとき、<sup>りゅうちょう</sup>流暢な会話力や読み書きのスキルもちろん大切ですが、さらに重要なのは、お互いの「違い」を理解し合うことではないでしょうか。英語を強い言語とする私は、英語の「I」と日本語の「私」にも文化の違いを感じます。「I」には自他の境界線を明確に感じるのに対して、「私」の場合はその境界線をやや曖昧に感じます。こう

ターの3つの基本戦略」を学ぶ回では、ファストファッションの「しまむら」を例に挙げ、「競合」について学ぶ回では料理教室の「ABC クッキングスタジオ」を取り上げました。学生はまず個人予習をして自分なりに仮説を立て、次にグループで議論をして段階的に考えを深めていきます。「グループワーク」では実際に企業提案を行います。2023年度は、キッコーマン株式会社にご協力いただき、学生は既存商品である合わせ調味料に関する開発提案を行います。企業側からリアルなフィードバックを受けることで、学生に肌感覚で「仕事」を理解してもらえれば授業は大成功です。

### 継続的な思考を促す「レ点の学び」が、 学生の実力を育む

「ケース課題」でも「グループワーク」でも、共通しているのは「私から正解は教えない」というスタンスです。例えば、Aという課題に対してはどのような解決策が最適か、もちろんヒントは出しますが、授業の中で「正解」を明かしたり、グループ討議で結論付けたりせず、学生個人が考え続けられるような余地を残します。安易に「正解」を与えられてしまうと、学生はそこで考えることをやめてしまうでしょう。浅い知識を得

た「違い」を念頭に置くことで、対話はよりスムーズに進み、意見の異なる者同士でもより共存しやすくなるのではないのでしょうか。また、言語は人間のアイデンティティーと密接に結びついているものです。私は「相手のアイデンティティーを理解し、尊重する能力」は非常に大切な力であると考えていますが、語学学習と文化理解を同時に学ぶことはアイデンティティーの理解にも役立ちます。私は英語教育において「CLIL (Content and Language Integrated Learning)」という学習法を用いています。CLILとは、教科やトピックを付加言語（多くの場合は英語）を使い、内容と言語を統合させて学ぶアプローチで、語学スキルだけではなく、批判的思考を使い、総合的な学びを目指す手法です。こうしたCLILのアプローチは、学際的な学びであるリベラルアーツと非常に親和性の高いものです。多元的な学びは、深い思考と、地球市民的な視野を育みます。リベラルアーツの伝統を持つ本学でCLILを行うことで、学びの力が引き出され、より意義深い学びが期待できると考えています。

### 祈り、学び、友人と語らう日々。 本学で過ごした温かな日々が、今を支える

私自身も本学の卒業生であり、キャンパスでの日々は今も大

て満足するのではなく、もっと奥深いところに興味を持ってもらいたいと考え、こうした「オープンエンド」の形をとっています。もちろん有名な経済理論を網羅するタイプの授業もありますが、まだ社会に出ていない学生には体験的な学びがベストだと考えました。たとえ断片的な知識であっても、記憶に何らかのインパクトを残しておけば、それが脳におけるひっかかり（レ点）のような役割を果たして、後々の振り返りの起点となってくれるからです。実社会の課題に絶対解はありません。こうした授業を通じて、学生にはよりリアリティのある学びを得てもらいたいと考えています。

私は若い人の力を信じています。この8月に本学で開催した「中高生・大学生のための仕事塾」でも、学生の自由な発想こそが今後の日本を作っていくという印象を持ちました。可能性を広げるために必要となるのが知恵と行動力です。私は実践で使える知識のことを「知恵」と呼んでいます。知識を知恵に変えられるのは自分だけです。授業で鍛える「思考力」を味方として、ぜひ知恵を手に入れてください。私は学生の皆さんに、自分の人生を自ら切り拓いていけるような人間になってほしいと願っています。この授業が、そのためのファーストステップとなれば本望です。✿

きな支えとなっています。編入前に恵泉女学園短期大学に通っていた頃から東京女子大学卒の先生方とのご縁があり、素晴らしいクリスチャンの先生方から貴重な学びを得ました。吉川俊子先生からはチャンスを生かすため徹底的に準備することの大切さを、故大塚野百合先生からは「誠意と責任」について教えていただきました。大学生活では、日々のお祈りを通じて神様との対話を深めるとともに「人間の存在とは何だろう」といった思索を掘り下げることもできました。友人との語らひも大切な思い出です。熱を込めて文学論を語ってくれた友人、スポーツに打ち込んでいた友人など、個性あふれる素晴らしい友人たちの姿から、私は「私自身も個性を大切にしたいのだ」と自信を持つことができました。彼女たちからのリクエストに応じて「人間ジュークボックス」のように歌ったり、英文科の合宿ではみんなでシェイクスピアの『冬物語』を上演したりと、楽しい記憶の数々は今でも胸を温めてくれます。東京女子大学は、女子がどのように社会貢献できるかということを深く考えている大学だと思います。多様性重視の社会で、女性の働きは今後ますます重要なものになっていくでしょう。ご自分にしかできない働きを発展させる学びの場として、東京女子大学での毎日を共に大切に生きていきましょう。✿

(聞き手 渋谷麻子)

TWCU **OG** TALK

◆ 卒業生インタビュー ◆

Vol.11

卒業後も学び続け、仕事をする上で必要な知識を身に付けると同時に、ライフステージの変化で得た新たな視点を生かして自分の力に変えていく、そんな卒業生からのメッセージをお届けします。

## 人力飛行機製作の挑戦が 私の人生の道しるべとなる

1年次に思い付きで人力飛行機製作チーム「飛ん女の会」を創部したときから、私の鳥人間コンテストへの挑戦は始まりました。分からないながらも図面や書類を作成して書類審査に応募するとまさかの合格。知識もお金も道具も活動場所もない中、先生や学会の協力の下学生研究グループとして活動することになり、人力飛行機を骨組みから自作し、気合いと周りの人の優しさで突破しました。

在学中にコンテストには2度出場しましたが、卒業後も挑戦を続けました。縁あって社会人チーム「FlightWorks」の代表となり2016年には3回目の出場を果たしますが、滑空機ではなく人力プロペラ機部門での出場のため機体には乗らず、ボートに乗って機体を応援する形になりました。飛んでいる機体を下から見たとき、それがとてもきれいでうらやましく「私が飛びたかったのに」と猛烈に思ってしまう、2018年から何とパイロットに復活。その後、私自身が体調を崩し、同時期にチームも崖っぷちに立たされたこともありましたが、それらを乗り越え出場を重ね、2023年7月の8回目出場では滑空機で383.04mの飛行を記録しました。

実のところ、東京女子大学に入っていなかったら、初めての鳥人間コンテストの書類審査には通っていなかったと思います。当時も今も単独で女子大チームを作ったのは私しかいませんし、女性パイロットもほとんどいませんでしたから、物珍しさという要素もあったでしょう。そして、書類が合格になったとしても、大学の教職員の

飛ん女の会  
with FlightWorks パイロット

**土取 樹さん**

TSUCHITORI Tatsuki

2015年現代教養学部数理科学科数学専攻卒。吉荒ゼミ。  
東京女子大学在学時、人力飛行機製作チーム「飛ん女の会」を創部。  
2012年の初出場以降、2023年に至るまで計8回の鳥人間コンテストに出場。  
現在は虎ノ門知的財産事務所に勤務。



方々や周囲の人々の優しさがなかったら、何も進まずに棄権して、そのまま終わった可能性が高いですね。少数制で興味のあることが学べるからという理由で選んだ大学でしたが、挑戦することを恐れず、諦めずに前に進み続けることを後押ししてくれた場所でもありました。

「東京女子大学らしさ」とは、やりたいことはやってみる、それができる環境であるということだと思います。私にとってそれは人力飛行機製作への挑戦でしたが、周囲も目標に向かって挑戦し続ける人ばかりでした。今、東京女子大学で学ぶ皆さんも、興味があることがあればぜひやってみてください。困ったら、周りの大人や先生に相談してみてください。私もそうして、人と人とのつながりを大事にしながら活動してきました。一人ではできないこともみんなで協力すればできますし、落ち込んだり不安になってしまうことも、周りから応援していただいたり、優しさをいただいたりすることで、きっとまた一つ先に進めますから。🌸



第45回鳥人間コンテスト2023出場の様子



## 就活 応援宣言!

Career Center's Page



第5回

就職活動をする後輩たちへの  
応援メッセージ

東京女子大学は、学生一人ひとりが目標を持って充実した生活を送り、自分の適性や希望に合った生き方を見つけることができるように支援を行っています。就職活動を終えた学生から後輩たちへの応援メッセージをお届けします。

### 小さな一歩の積み重ねが 大きな自信に

人文学科 歴史文化専攻 4年

石井 佑理 ISHII Yuri

三菱 HC キャピタル株式会社に内定

就職活動を始めた頃は、「インターンシップはどのくらい応募すればいいの?」「エントリーシートはどう書いたらいいの?」と分からないことだらけでした。そんな私にとって、本学のキャリア・センターは、一緒に初めの一歩を踏み出してくれる存在でした。最初はうまくいかなかった面接も、一緒に面接の対策をさせていただく中で、

自分でも不思議なくらいに自然と自分の良さを出せるようになっていきました。そしていつからか、キャリア・センターに進捗の報告ができることが楽しみにもなっていました。私のように就職活動に自信がない方にこそ、ぜひ本学のキャリア・センターを利用してほしいです。必ず皆さんの心強い味方になってくれます。

また、就職活動は期間も長いので、楽しむことも大切にしてほしいです。こんなにも多くの会社が、自社や業界について説明してくれる機会はなかなかないと思います。「普段私たちが使っている身近なサービスの裏側に、どんな会社、業界が携わっているのだろう」と自分の興味を持てる部分をぜひ見つけてみてください。その興味の中にきっと、自分が本当にやりたいことのヒントがあると思います。✿

## ワタシゴトキャリアラボ2023を実施しました!

キャリア・センターでは、「ワタシ×シゴト」をテーマに1・2年生を対象とした5Daysワークショップを実施しました。このワークショップは、参加者が今後のキャリアを描き、行動につなげることを目的としています。今年度は「新たなAIの活用」をメインテーマに、3つの協力企業(タキヒヨー(株)、(株)電通国際情報サービス、ANAエアポートサービス(株))が企画した異なるワークにチームに分かれて取り組みました。

導入となるDay1では、MBTI診断による個性理解や協力企業の紹介、OG社員のパネルディスカッションが行われました。Day2からDay4まではAIと各社のシゴトを組み合わせ、ファッショントレンド、空港サービスの革新、“あったらいいな”を生み出すAIなど、多様なテーマに取り組み個性あふれるアイデアを出し合いました。最終日のDay5では自己理解を深め、自身の成長の振り返りと今後の学生生活に向けた目標設定を行いました。

参加者からは、「自分にしか出せないアイデアをもっと生み出したいくなった」「これからの学生生活をポジティブに考えられるようになった」「積極的なメンバーとの交流を通して自分の個性や役割を確認し合えた」などの感想が寄せられました。



Day3「【空の旅×ANAワクワク】の可能性を考える日」における空港見学の様子

## はばたけ東女生!

自ら「問い」を立て、学びを深め、  
学ぶことを楽しむ学生の姿を紹介します。

東京女子大学学会では、学生研究奨励費として学生が自主的に形成した研究グループを対象に支援を行っています。  
今回はそうした奨励費制度を活用したグループに取り組みの様子を語ってもらいました。

国際英語学科 国際英語専攻 4年  
学生研究奨励費研究グループ はらぺこガールズ

**森澤 みちる** MORISAWA Michiru

こんにちは! 学生研究奨励費研究グループ「はらぺこガールズ」です。私たちは東京女子大学学会「学生研究奨励費」の助成を受け、食べ物と児童文学に関する研究に約8カ月間取り組みました。



『ナルニア国ものがたり』のターキッシュ・ディライトや『西の魔女が死んだ』の野いちごのジャムなど、児童

文学にはたくさんの食べ物が出てきます。今回の研究では、それらが描かれた背景や込められた意味に着目しました。物語の鍵を握っていたり、登場人物の気持ちを代弁する手段であったり。食べ物に託された役割は、物語の数だけありました。「食」という新たな切り口から、児童文学を読みたい。そんな思いを持ったメンバーで始まったこの研究では、最終成果物として『ものがたりの隠し味』という冊子を作成しました(写真参照)。

冊子では、アメリカ、イギリス、日本の児童文学9作品を取り上げました。1作品につき担当者一人

で、引用箇所決定から解説の執筆まで行いました。昔から大好きな作品を扱った人も、この研究を通して初めて出会った作品を担当した人もいます。解説箇所に



### 「ものがたりの隠し味」をさがして

は、担当者一人ひとりの着眼点や感性がよく表れていて、とても読み応えがあります。また、絵本をイメージしたイラストや装丁にもこだわり、手に取るとホッとした気持ちになれるような、かわいらしい冊子に仕上げました。



研究を通して得た最大の学びは、イギリスの作品に比べると日本の児童文学には、食べ物の登場が少ないということです。『くまのパディントン』や『秘密の花園』など、食べ物が出てくるイギリスの作品は非常に多くありました。一方日本の作品となると、食べ物を描いた絵本はたくさんあるものの、児童向けの読み物では途端に数が減るので、日本は伝統料理だけでなく、世界各国のおいしい料理が食べられる世界的に珍しい国です。食生活のグローバル化、多様化が進んでいるがゆえに、物語の中で日本独特の食に着目するという発想が生まれにくいのかもかもしれません。

学年も専攻も異なるメンバー8人で一から作り上げた冊子は、私たちの一生の宝物です。この約8カ月の研究期間、物語の「料理人」としてメニュー開発をしているような充実感で過ごせました。この冊子を手にとってくださった方も、物語をおなかいっぱい味わっていただけたらうれしく思います。✿





【今号のテーマ】

## 留学生報告

新型コロナウイルスの影響で一時的に中断していた留学も既に再開し多くの学生が体験するようになりました。  
今回は現在ニュージーランドに留学中の学生、東京女子大学で学ぶ外国人留学生の2名が各々の体験を語ります。

私は2月からニュージーランドのカンタベリー大学(UC)に協定校留学をしています。実は昨年度出願したのですが、新型コロナウイルスの影響でニュージーランドの国境が閉まっていたため渡航できず、やむを得ずキャンセルしました。そして今年度再び出願し留学が実現しました。

UCでは主にマーケティングを中心に学んでいます。日本の授業に比べ、1つの科目に対してより幅広く、深く学ぶことができます。約500ページある教科書のほとんど全ての内容を授業で扱うため、1回1回の授業内容がとても濃いです。UCが好きな理由の一つに、大学内でのイベントの豊富さが挙げられます。クイズイベント、文化的交流イベント、Language Exchange、バイキングなど、数え切れないほどのイベントが毎日のように開催されています。私はイベントに参加することで交友関係を広げています。

留学をしたことで、自分の将来に関わる視野が広がり選択肢が増えました。これから時間をゆっくりかけて、これまでの経験を踏まえた上で自分がどのような進路に進んで行きたいかを考えていきます。

(国際社会学科 経済学専攻 4年 永井 舞)



ニュージーランドの動物園にて

私は日本の文学や文化について学びたいと思い、そのために日本に留学し、現在は東京女子大学の人文学科日本文学専攻に所属しています。授業では日本の歴史や日本語学の奥深さにつ



東京国際映画祭学生インターン活動中

いて学んでいる他、古代から現代までの日本文学に関する学びにも取り組んでいます。少人数制の授業のおかげで、先生に気軽に質問することができ、他の学生と協力してグループワークを行うこともできました。授業だけでなく、学外でもさまざまな活動を経験しました。1年次から東京国際映画祭に学生インターンとして参加し、映画業界のプロフェッショナルと交流し、イベントに貢献しながら学びました。また、幻冬舎やTokyo New Cinemaなどでの長期インターンシップに参加し、障害者美術展覧会や環境NGOなどでのボランティア活動でも貴重な経験を得られました。学内外の学びを通じて、日本の人文社会と文学文化に深く関わり、国際的な視野を広げることができました。卒業後は、日本のテレビ局に就職する予定です。将来、国際的なドラマや映画を制作することが私の目標です。

(人文学科 日本文学専攻 4年 呉 心怡)

Mount Holyoke Collegeとの

国際交流 2023

## Jasmineと過ごして学んだこと

国際英語学科 国際英語専攻 2年

高宮 まふさ TAKAMIYA Mahsa

Mount Holyoke College からインターン生として東京女子大学にきたJasmine Nakamuraさんとは、今思い返してもとても充実した日々を送ることができました。

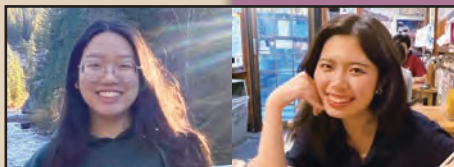
Jasmineと過ごしている期間、英語でのコミュニケーション力の向上はもちろんのこと、私の履修している授業に彼女が参加するたびたくさんの刺激を受けました。いろいろな角度からその内容について切り込んでいく姿を見て、新しい視点からその物事について考えさせられることがいくつもありました。中でも、授業でプレゼンテーションをした際に、ありきたりな質問

ではなく、一捻りされた質問をされ、英語でうまく答えられなかったことに対して悔しい思いをし、自分もそのような質問ができるようになりたい、そして、その質問に対して自分が納得できるような答え方もできるようになりたいと思いました。

授業内のみならず、授業外でも一緒に大学周辺へご飯を食べに行ったり、電車の乗り方を教えてあげながら都心の方へ遊びに行ったり、昼休みには学生同士で集まって、昼ごはんを食べながら英語で会話をし、彼女自身のことやアメリカでの生活、日本の生活との違いもさまざま知り、Jasmineと仲を深めることができました。

Jasmineとの交流をきっかけに2年次後期からの留学に向けた準備をすることができたのと同時に、留学中に達成した新しい目標などもできました。また今度は私がアメリカに行った時にJasmineに案内をしてもらうことになっているので、その時までには英語力も含めさまざまな面でより成長できていたらいいと思います。

Thank you so much Jasmine and see you again someday!!!



## Internship experience at TWCU

Mount Holyoke College  
Economics Major

Jasmine Nakamura

My 7-week internship at Tokyo Woman's Christian University has been a phenomenal experience, allowing me to grow significantly as both a student and an individual. To be completely honest, I felt a mix of excitement and nervousness as I boarded my flight to Japan and upon my arrival. However, immersing myself in the heart of Japan and experiencing an academic environment while venturing out has been incredibly rewarding.

During my time at TWCU, my responsibilities fell into four main categories: individualized meetings, assisting in classes, hosting seminars, and participating in events. Engaging in these day-to-day activities and interacting with faculty and students has provided me with valuable insights into Japanese culture and university life, which was an entirely new experience for me. As an English Education Intern, my role included introducing American culture and sharing

my experiences as a college student in the United States. I found that I gained just as many insights from being in Japan, allowing me to develop cultural awareness and interpersonal skills.

While I did face challenges related to cultural understanding and language barriers, I received tremendous support from fellow students and faculty members from the English department. Everyone I met was exceptionally kind, and I cherished every moment spent with them. One of the most surprising and heartwarming encounters I had was reconnecting with Mahsa. In addition to my internship, Mahsa generously guided me to various places around Tokyo. From teaching me how to navigate the train system to introducing me to local dishes, her guidance truly transformed my summer in Japan into an unforgettable experience. I hope to visit Japan again someday and reunite with everyone. ありがとうございました!

※東京女子大学は2004年度よりアメリカのMount Holyoke Collegeと協定を結び、毎年インターンシップ学生を受け入れています。2023年度は対面でインターンシップを行いました。

## TOPICS

## 湊晶子元学長 キリスト教功労者として顕彰

元東京女子大学学長で現在は広島女学院顧問を務める湊晶子先生がキリスト教功労者として顕彰されました。同顕彰は日本キリスト教文化協会が主催するもので、教育事業およびキリスト教神学への多大な貢献と功績が認められた結果となります。第54回キリスト教功労者顕彰式は10月23日(月)、日本基督教団銀座教会で開催されました。

## 小野祥子元学長が 瑞宝中綬章を受章

令和5年秋の叙勲において、小野祥子元学長が瑞宝中綬章を受章されました。本学文理学部英米文学科の卒業生でもある小野先生は、1995年4月より本学文理学部教授を務めるとともに、2014年4月には第15代学長に就任し、本学の教育と研究の発展に尽力されました。

## データサイエンス副専攻コア科目 文部科学省 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定

この制度は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な能力を育成するために、関連する知識及び技術を体系的に教育する大学等の正規課程を文部科学大臣が認定し奨励するものです。この度認定を受けたデータサイエンス副専攻コア科目(2021年度以降入学者に適用)は、データサイエンス

の手法を概観し、社会における重要性と意義を理解して、情報処理の基礎的スキルを身に付けることを目的としています。所定の単位を修得した者には学修歴を可視化できるオープンバッジが授与されます。

AI・データサイエンス教育研究センター



## 普連土学園中学校・高等学校、東京女学館中学校・高等学校、 三輪田学園中学校・高等学校との高大連携協定の締結について

2023年10月、普連土学園中学校・高等学校、東京女学館中学校・高等学校、三輪田学園中学校・高等学校との高大連携協定を締結しました。この協定は、相互の交流と連携を通じて、中学生・高校生の知的好奇心を育てて学ぶことへの熱意を涵養するとともに、大学の求

める学生像および教育内容への理解を深め、中学教育・高校教育・大学教育の質的連携を通じて、新たな人物養成とそのための教育的可能性の開拓を目的とするものです。今後、この協定をもとに、各校との教育に関わる交流・連携を強化してまいります。

## 2023年度川上貞子奨学金・江口裕子大学院奨学金授与式

2023年度川上貞子奨学生と江口裕子大学院奨学生が決定し、7月に学長室でそれぞれ授与式を行いました。授与式では森本学長より授与者へ激励の言葉が送られ、各々の研究内容に基づき懇談を行いました。

川上貞子奨学金は卒業生、故川上貞子氏の遺贈に基

づき研究を継続したいと考える本学出身者を支援するため創設されました。また、江口裕子大学院奨学金は本学名誉教授、故江口裕子先生のご遺贈により成績優秀な大学院生に授与しています。

## 2023 年度父母懇談会報告

9月16日(土)、学内で父母懇談会を開催し、約540世帯のご家族が来場されました。

森本学長、小田現代教養学部長が、本学の教育に関して現況を報告し、また、就職状況や留学の説明がありました。学生によるキャンパス・ツアーや教職員による個別

面談などにも多くの方のご参加があり盛況となりました。

今年は、コロナ禍前と同様、学友会公認サークルの活動発表として書道部の作品展示、古典ギター愛好会の演奏を行い、ご父母の皆さまに日頃の活動の成果を見ていただく良い機会となり、大変好評でした。

## 前期末卒業者・修了者 キャンパスを巣立つ

9月15日、前期末学位授与式を挙行了しました。

森本あかり学長から、以下の告辞がありました。

卒業・修了おめでとう。わたしたちの人生は、さまざまに起こる偶然の出来事の積み重ねりで出来上がっています。けれども、あるときふと気付くことがあります。それらは、まったく脈絡のない、ばらばらな出来事の連続ではなかった。自分が計画したわけではない。でもあつたとき、たまたま誰かに出会った。何かを経験した。後になってみると、まさにあれがすべての始まりだった。そう感じられることがあります。そのときわたしたちは、自分の人生が自分の意志や努力だけでできているのではない、ということに気が付きます。皆さんが本学を思い出すとき、このチャペルで聞いた聖書の話も思い出してください。それが皆さんの心のどこかにsomethingとして住み続け、何か大切な決断をするときに、人生の羅針盤となりますように、心から祈ります。

### 2023年度 前期末卒業者・修了者数

現代教養学部		
国際英語学科	国際英語専攻	1
	哲学専攻	2
	日本文学専攻	1
	英語文学文化専攻	1
人文学科	歴史文化専攻	3
	国際関係専攻	5
	経済学専攻	2
国際社会学科	社会学専攻	1
	心理・コミュニケーション学科	コミュニケーション専攻
人間科学科	言語科学専攻	1
数理科学科	情報理学専攻	1
大学院(博士前期課程)		
人間科学研究科	人間文化科学専攻	1
計		20

## 謹弔

哀悼の意を捧げます。

### 北條 文緒先生

名誉教授  
2023年7月23日ご逝去 87歳

1967年4月 短期大学部 英語科 専任講師就任  
1977年10月 短期大学部 英語科 教授就任  
2004年3月 現代文化学部 言語文化学科 定年退職  
学部長、牟礼図書館長、女性学研究所長などを務められた。



### 北條文緒先生に贈る言葉

国際英語学科 国際英語専攻 教授 田中 美保子 TANAKA Mihoko

この原稿を書きかけたとき、北條文緒先生の『血の焔』(国書刊行会)が日本翻訳家協会の第60回日本翻訳文化賞受賞という朗報が飛び込んできた。教え子のみならず、関わった多くの人たちに鮮烈な思い出を残して旅立たれた先生の最後の翻訳書で、急逝される約半年前に、86歳で仕上げた692頁の大著である。短大から四年制への改組の中核として、また学部長や女性学研究所長などの要職をいくつも担う傍ら、20世紀イギリス文学の研究や教育に劣らない情熱を注がれたのが翻訳と翻訳教育だった。その最後の労作で生涯現役の手本を示し、自ら華を添えられたのはさすがである。

「手あかの付いた言葉を使うのはおやめなさい」「言葉で人は殺せます」「頭がはげるくらい考えなさい」「ポキャ貧!」「たまには切ったら血が出るような文章を書けないの!」先生が教え子たちの心に刻み込んだのは、とりわけ辛辣でユーモアと人間味溢れる言葉の山だ。でも、みんな、だれよりもご自分に厳しいことを知っていたし、齒に衣着せぬ言葉をかけられると、自分が特別にかわいがっていただいていると思えてうれしくさえた。

最後の最後まで背筋が伸びた教師だった。先生の、母校の大学教育への情熱と知恵のかけらでも良いから次世代に継承し、再会時に胸を張って感謝の言葉を贈れるよう、襟を正したい。



『血の焔 宗教と暴力』  
カレン・アームストロング 著  
北條文緒／岩崎たまゑ 訳  
(国書刊行会 2022年)



第60回日本翻訳文化賞授賞式(10月26日学士会館にて)。左から中川原徹さん(担当編集者)、筆者、北條太郎さん(ご子息)、岩崎たまゑさん(共訳者)、叶谷渥子さん(日本翻訳家協会理事長代行)

NOTICE

2022 年度決算について

事務局長

安藤 由紀美



2022年度決算

2022年度決算について、概要をご説明いたします。  
事業活動収入は5,471百万円で、前年度比98百万円の増収となりました。入学手続者数増による入学金収入の増加、利用制限緩和に伴う学寮収入の増加等によります。事業活動支出は5,189百万円で、前年度比81百万円増加しました。給付型奨学金の増加や食堂什器更新が主たる要因です。また、キャンパス整備計画に基づく第2号基本金組入れを行いました。  
以上の結果、基本金組入前当年度収支差額は281百万円と前年度比17百万円増加、基本金組入後当年度収支差額は68百万円と前年度比157百万円増加、前年度繰越収支差額に当年度基本金取崩額及び当年度収支差額を加算した翌年度繰越収支差額は1,983百万円です。今後とも財政状態の向上、安定した経営基盤の実現に努めてまいります。

※2022年度決算の詳細は、事業報告書と共に本学公式サイトでご覧いただけます。

REPORT

2023 年度教育後援会評議員会報告

教育研究支援部 学生生活課 課長

森田 光則

東京女子大学教育後援会は学部生のご父母からなる組織です。ご父母の皆さまには日ごろより本学の教育事業に多くのご支援を賜り誠にありがとうございます。

2023年度評議員会は7月23日(日)にキャンパスで3年ぶりに対面開催され、九州など遠方からお越しの方もいました。評議員会では、評議員の委嘱(新入生父母28名、2~4年生父母104名、計132名)、前年度事業報告・決算と本年度事業計画・予

算の承認(それぞれ下記参照)、会長と副会長の選出が行われました。新会長は平賀尚史様、新副会長は安本勉様、大川世紀様です。2022年度会長森田有継様は今回をもって退任されました。森田様のご尽力に感謝いたします。評議員会終了後には11号館で懇談会を行いました。学長、副学長、学部長、国際英語専攻主任、キャリア・センター課長が出席し、和やかな雰囲気での懇談の時を持つことができました。

●教育後援会 2022 年度決算および 2023 年度予算

決算は2022年4月1日から2023年3月31日

予算は2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位:円)

科目	2023年度予算額	2022年度決算額
<b>収入の部</b>		
1 会費収入	64,800,000	63,150,000
現代教養学部	64,800,000	63,150,000
2 前期末会費未収入金収入	30,000	10,000
3 利子収入	10,000	166
4 期末会費未収入金	—	△ 30,000
当期収入合計(A)	64,840,000	63,130,166
前年度繰越金	450,000	3,122,939
収入の部合計(B)	65,290,000	66,253,105
<b>支出の部</b>		
1 事業費	64,230,000	65,361,445
広報誌関係費	2,980,000	2,849,266
父母懇談会(学内)	1,210,000	444,758
父母懇談会(学外)	1,900,000	1,117,421
東京女子大学への寄付金	58,140,000	60,950,000
2 事務費	1,060,000	441,476
消耗品費	150,000	23,622
印刷費	40,000	47,900
通信費	100,000	135,510
旅費交通費	480,000	0
会議費	40,000	2,520
報酬手数料	250,000	231,924
支出の部合計(C)	65,290,000	65,802,921
当期収支差額(A) - (C)	△ 450,000	△ 2,672,755
次年度繰越金(B) - (C)	0	450,184

●2022年度の東京女子大学への寄付金の使途

1. 学生食堂什器更新費用一部補助	10,974,225円
2. キャリアカウンセラー委託費補助	10,783,725円
3. 講堂・教室の視聴覚機器更新、デジタル対応化費用一部補助	10,396,000円
4. 3号館・23号館ガラス飛散防止フィルム貼付	8,659,200円
5. 図書館地階西側電動集書架更新費用一部補助	6,390,000円
6. グラウンド天然芝年間維持管理費	4,950,000円
7. 学生用Webシステムの機能拡充・改修費用	3,784,000円
8. 学生の電話健康サポート委託費	1,439,900円
9. 学生活動補助(大学祭補助金)	1,100,000円
10. 食堂運営業務委託費一部補助	1,000,000円
11. 学生の文化活動支援	872,950円
・国立美術館キャンパスメンバーズ年会費	370,000円
・東京国立博物館キャンパスメンバーズ年会費	262,000円
・国立科学博物館大学パートナーシップ年会費	240,950円
12. 学生相談室カウンセラー増員費用補助	600,000円
計	60,950,000円

●2023年度の東京女子大学への寄付金の使途

1. 11号館1階食堂什器更新費用一部補助	15,000,000円
2. 視聴覚機器更新費用一部補助	14,000,000円
3. キャリアカウンセラー委託費補助	10,790,000円
4. 学術情報ネットワーク費用一部補助	7,550,000円
5. グラウンド天然芝年間維持管理費	5,280,000円
6. 食堂運営業務委託費一部補助	1,500,000円
7. 学生の電話健康サポート委託費	1,440,000円
8. 学生活動補助(大学祭補助金)	1,100,000円
9. 学生の文化活動支援	880,000円
・東京国立博物館キャンパスメンバーズ年会費	260,000円
・国立美術館キャンパスメンバーズ年会費	370,000円
・国立科学博物館大学パートナーシップ年会費	240,000円
10. 学生相談室カウンセラー増員費用補助	600,000円
計	58,140,000円

## REPORT

## ご支援へのお礼

多数のご寄付をいただき、ありがとうございます。  
ご芳名のWEBへの掲載は控えさせていただきます。

## NOTICE

## 2024年度学費について

2023年度以前入学者の授業料、教育充実費、在籍料は下記の通りです。

授業料、在籍料は2023年度に据え置きとなり、教育充実費は増額となります。学費の詳細および2024年度入学者の学費は公式サイトをご確認ください。



(年額：円)

	授業料	教育充実費	在籍料 (休学中のみ)	
現代 教養 学部	国際英語学科	760,000	314,000	140,000
	人文学科、国際社会学科、 心理・コミュニケーション学科、 数理科学科、人間科学科	760,000	274,000	140,000
大学院(博士前期課程)		540,000	164,000	100,000
大学院(博士後期課程)		540,000	144,000	100,000

## NOTICE

「ウクライナからの避難学生支援」  
寄付中間報告

2022年9月より開始した「ウクライナからの避難学生支援」寄付は、2023年7月末時点で延べ75件、総額約1,000万円のご寄付を賜りました。多くの方々よりご芳志を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

これまでにいただいたご寄付は、2022年9月より聴講生として受け入れた1名の学生の学修支援、生活支援の支出の一部として使用させていただいております。今後は、現在受け入れている学生の残りの在籍期間に必要な費用の他、2024年度に新たに学生を受け入れる場合には、入学金や授業料等の費用にも使用させていただく予定です。引き続きご支援くださいますよう、何卒お願い申し上げます。

寄付募集要項や公式サイトに記載しております通り、最終的に必要とする経費を上回るご寄付を賜りました場合は、外国人留学生の奨学資金とさせていただきます。

## 同窓会からのお知らせ

同窓会主催行事に在校生、ご家族のご参加をお待ちしています。  
イベント、講座をやむなく中止・延期する場合は  
同窓会ホームページにてお知らせします。  
開催の有無を必ず確認の上、ご参加ください。  
お申し込み詳細は同窓会ホームページをご覧ください。

Tel.03-3395-4448  
Fax.03-3395-0084  
<https://www.twcu-alumnae.jp/>  
E-mail: office@twcu.jp  
X(旧Twitter): @vera\_twcu  
(9:00~17:00開館 日・月曜日、祝日休館)



同窓会ホームページ

## 東女ネットワークの会「集い」(同窓生対象)

女性のリーダーシップで社会を変えるーセカンドキャリアの挑戦ー  
講師：山口かおる(2000年文理学部哲学科卒・新宿区議会議員)  
日時：2024年1月26日(金)19:00~20:30  
オンライン開催・会費無料

## 講演会「100cmの世界へようこそ」

～車イスの元東女生が、卒業後の葛藤の中でたどり着いた「ある言葉」～  
講師：畠中梨絵(2010年現代文化学部コミュニケーション学科・  
2012年大学院現代文化研究科修士課程修了)  
日時：2024年2月20日(火) 13:30~15:00  
会場：72年館(同窓会)オンライン併用  
会費：2,200円 学生600円



### 表紙の場所

チャペル。講堂と一体となった建物で、文化庁登録有形文化財にも指定されています。外観は白亜の様相ですが、内観はステンドグラスが色とりどりに輝いています。日々礼拝が行われている他、定期的にチャペルコンサートが開催され、パイプオルガンの美しい音色が響きわたります。クリスマスが近づくと、アドヴェント・キャンドルサービスなどもチャペル内で行われています。

### 広報誌『VERA』定期購読のご案内

詳しくは、本学公式サイトをご覧ください。



### VERA ネーミングの由来

『VERA』はラテン語で「真実」を意味します。本学の本館に刻まれている「QUAECUNQUE SUNT VERA」（すべて真実なこと）は新約聖書「フィリピの信徒への手紙 第4章8節」の中の聖句の一節で、自由な学問の場としての本学を表しています。広報誌『VERA』により、真理の探究の場である本学の「いま」、学生、教育、研究、卒業生の「いま」を伝えることを使命として、教職員および学生への公募の結果、新たな名称として採用されました。

### Web アンケート

『VERA』に関するご意見、ご要望をお寄せください。QRコードよりご入力ください。



# VERA

第2号 / 2023年度

## Contents

### 02 CHRISTMAS MESSAGE

#### 闇に勝る光がある

……五十嵐 成見

### 04 SPECIAL FEATURE

#### 深い思考をもたらす「実践的な学び」とは？

### 06 Career

TWCU OG TALK vol.11……土取 樹さん  
就活応援宣言！ 第5回……石井 佑理  
ワタシゴトキャリアラボ2023を実施しました！

### 08 Students

はばたけ東女生！……森澤 みちる  
STUDENT PRESS Vol.7……永井 舞、呉 心怡

### 11 Studies

Mount Holyoke Collegeとの  
国際交流 2023……高宮 まふさ、Jasmine Nakamura

### 12 TOPICS

湊晶子元学長 キリスト教功労者として顕彰／  
小野祥子元学長が瑞宝中綬章を受章／  
データサイエンス副専攻コア科目 文部科学省  
「数理・データサイエンス・AI教育プログラム  
認定制度(リテラシーレベル)」に認定／  
普連土学園中学校・高等学校、東京女学館中学校・  
高等学校、三輪田学園中学校・高等学校との  
高大連携協定の締結について／  
2023年度川上貞子奨学金・  
江口裕子大学院奨学金授与式／  
2023年度父母懇談会報告／  
前期末卒業生・修了者 キャンパスを巣立つ／  
謹弔

### 14 NEWS

2022年度決算について……安藤 由紀美／  
2023年度教育後援会評議員会報告  
……森田 光則／  
ご支援へのお礼／2024年度学費について／  
「ウクライナからの避難学生支援」  
寄付中間報告／  
同窓会からのお知らせ

